

イカナゴ〔地方名：こうなご（稚魚）、めろうど（成魚）〕

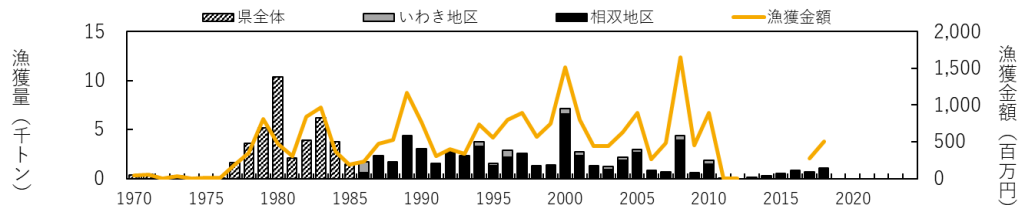
1 生態

- ・福島県で漁獲しているイカナゴは仙台湾系群に属しています。産卵期は12～1月で、主な産卵場は仙台湾周辺です。仔魚は1月下旬頃には福島県北部沿岸に運ばれ、2月下旬には中部南部沿岸にも分布が広がります。
- ・孵化直後の仔魚の体長は約5mmですが、3月には全長が概ね35mmを超えて漁獲加入します。全長40mmまでは約0.5mm/日で成長します。
- ・水温が15℃に達する夏季には、水深20～50mの中砂～砂礫帯の海底に潜砂し休眠します。
- ・主にカイアシ類等の浮遊性甲殻類を食べます。

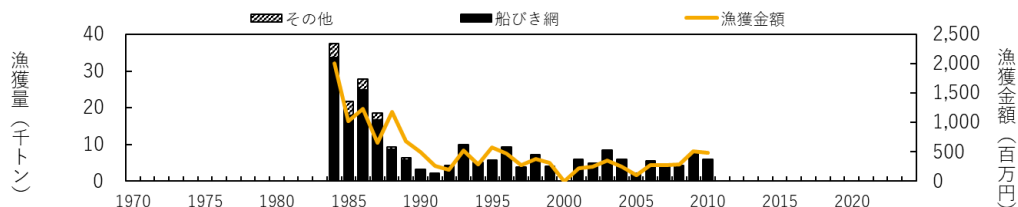


2 漁業に関する情報

- ・こうなご（稚魚）及びめろうど（成魚）を操業対象として、いずれも漁法は1隻びきによるかけ回りまたは2隻びきによる船びき網で漁獲されています。
- ・2011年3月の震災以降、操業自粛や国による出荷制限で水揚げはありませんでしたが、2013年（平成25年）3月にこうなごを対象とした操業が再開されました。
- ・2019年（平成31年）漁期以降、漁場が形成されず、操業は行われておりません。



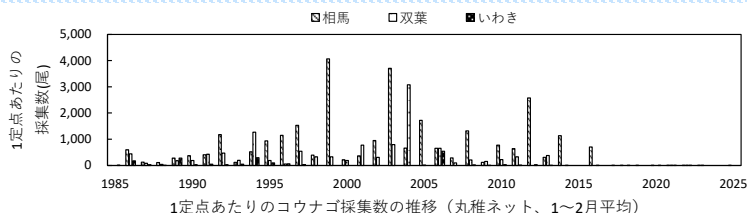
イカナゴ（こうなご）の漁獲量と漁獲金額の推移 * 2013～2016年まで相対取引のため金額データ無



イカナゴ（めろうど）の漁獲量と漁獲金額の推移 * 1983年以前及び2011年以降は操業なし

3 資源の状態

- ・資源水準：低位 資源の動向：不明
- ・2019年（平成31年）以降、こうなご漁場が形成されないこと、県の調査で稚魚及び親魚の採集数が極めて少ない状況が続いていることから、資源は極めて低位でいると考えられます。



1点あたりのコウナゴ採集数の推移（丸稚ネット、1～2月平均）

4 資源管理の取組み

- ・相双地区では、こうなごについて、低価格となるサイズを漁獲しない様に、着業時期や漁期中の調整を行っていました。（漁期前調査に基づく初漁日の決定、加工不適サイズ（通称ジャンボこうなご）が多く混獲される場合の操業休止。）